



学校だより こうなん

南の丘学園幼小中一貫教育目標

「夢に向かい 自分らしさを生かして ともに輝く子の育成」

花咲く高南っ子

令和4年度第5号

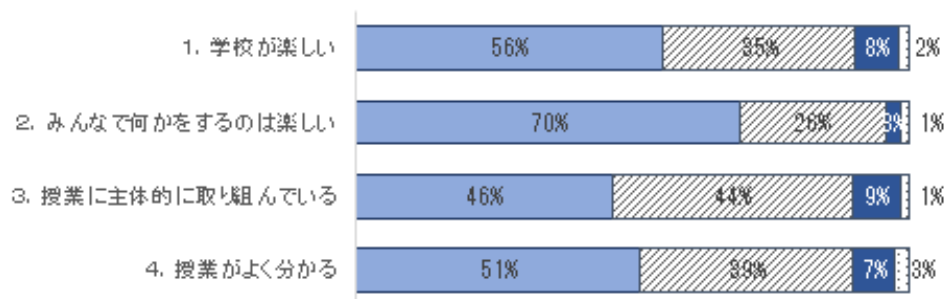
R4・9・30

袋井市立高南小学校

「学校の通信簿」の結果を生かして、一貫教育の充実を

本校の教育活動について児童・保護者の意見を聞き、教育活動改善のために生かすことを目的としたアンケート調査「学校の通信簿」(7月実施)への御協力ありがとうございました。今年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な活動に制限がありましたが、子どもたちは自分たちにできることを考え、日々の生活に精一杯取り組みました。南の丘学園の一貫教育の目標に即したアンケート項目の集計結果は下のグラフのようになりました。学園内の園・校に共通する目標値を設定(グラフの右側に表示)しましたが、3項目で達成することができています。本校の児童は、袋井市内の園・校はもちろん、南の丘学園内の児童・生徒・園児の中でも、自己肯定感や授業に向かう意欲が高いと言えることが分かりました。一方で、課題となる内容もいくつか見られましたので、以下にその内容と改善策を示しました。園・校と地域、家庭が協力し合って、児童のより良い成長のために働きかけをしていきたいと思ひます。

令和4年度 学校の通信簿(児童) 7月



南の丘学園 目標値

60%：達成

70%：達成

45%：達成

40%：達成

「とてもそう思う」の割合

令和4年度 学校の通信簿「学校の重点項目」(3者比較 抜粋) ※上から「児童・保護者・教員」

学び：自分の考えのよさに気付いている



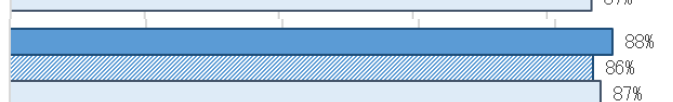
心：みんなのために進んで自分の役割を果たしている



夢：友達のよさを認めたり、言葉で伝えたりすることができる



基盤：自分にはよいところがある



これら4項目は、本校での重点項目となっています。学校教育目標「夢に向かい 自分らしさを生かして ともに輝く子」をめざし、「学び・心・夢・基盤」の4部で年間を通して取り組んでいます。数値は、最上位と上位を合わせたものとなっていますが、どれも子どもたちの自己評価は高いものとなっています。しかし、保護者や教員との捉え方の差があるものもあり、どのような姿になればいいのかを明確にし、3者でしっかりと共有していきたいと思います。

【 学習への取り組み 「自分の考えのよさに気付いている」 】

「自分の考えのよさに気付いている」は、これからの時代に必要な力であると考えます。日ごろの学習の様子などを客観的に見ている教員は、子どもたちが課題に対して自分の考えをもてるようになってきていると感じていることがグラフからも分かります。1人1台タブレットが支給され、ICT 機器を授業の中で活用することが多くなってきました。子どもたちが、ICT 機器を効果的に活用し、自分の考えを整理し、根拠を明確にして友だちに伝える中で、自分の考えに自信をもっていけるようにしていきたいと思います。さらに授業改善を進め、これからの時代に必要な力を高められるよう努力してきます。

【 自分の役割を果たす 「みんなのために進んで自分の役割を果たしている」 】

児童は、学校では係活動や委員会活動など、決められた役割を果たそうと努力する姿が見られます。また、発達段階に応じて、学級の中で自分から進んでみんなのために仕事を見付けたり、手伝いをしたりする姿も見られます。子どもたちのがんばりを見ている教員の数値は高いですが、保護者と差があるのは、学校での子どもたちの様子が分からない部分があったのではないかと思います。今後は、学校のHP や学校・学年便りなどで子どもたちの日々の様子をできるだけ伝えていきたいと思います。さて、忙しい中では、大人がやってしまった方が早い場合もあり、つい手を出してしまいがちですが、それでは社会の中で役割を果たそうとする態度や、自分で必要なことは何かを考える力が育ちません。「任せる・待つ」と共に、「見守り、時には一緒にやり、承認する」ことを心掛けていきましょう。

【 友だちのよさを認め伝える 「友だちのよさを認めたり、言葉で伝えたりすることができている」 】

子どもたちは、学級活動や帰りの会の中で、自分の一日を振り返ったり、友だちのがんばりやよさを認めたりする活動を行っています。「友だちのよさを認めたり、言葉で伝えたりすることができている」ことにつながっていると思います。

【 自己肯定感・自己有用感 「自分にはよいところがある」 】

南の丘学園共通の重点項目に「4つの承認」があります。高南小学校でも、年間を通して全校で取り組んでいます。その結果、子どもたちは、「自分は認めてもらえている」「自分にはよいところがある」と感じることができています。自己肯定感や自己有用感が高まることで、様々な活動においての主体性にもつながります。今後は、教員だけでなく、子ども同士でも「4つの承認」意識していきます。ぜひ、家庭でも実践していただきたいと思います。

